

# 房総に生きた里見氏

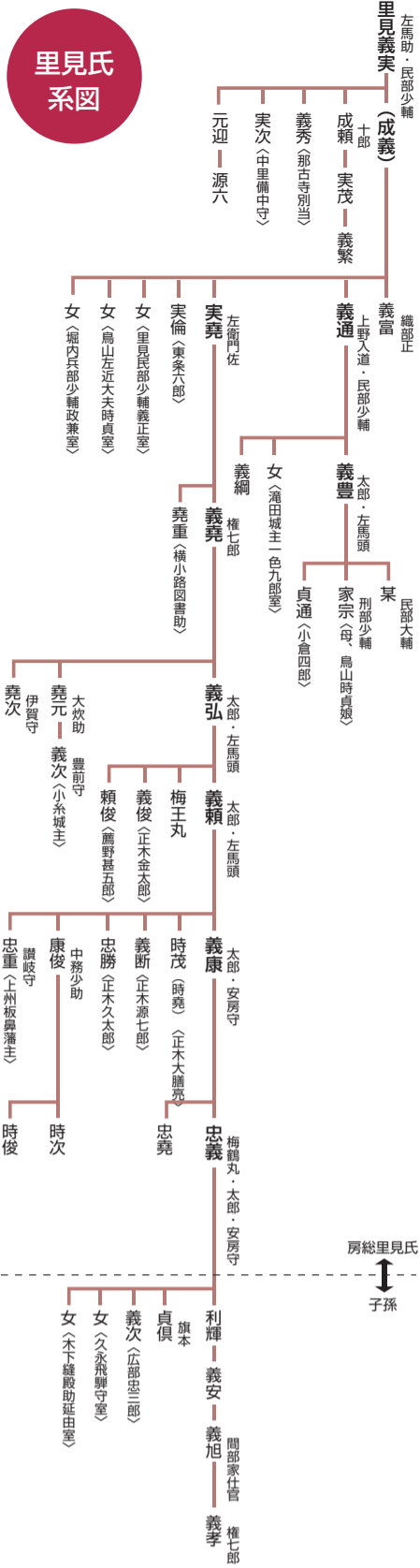
里見氏は戦国時代の房総に君臨した一族です。1400年代の中頃に安房に現れ、慶長19年(1614)徳川幕府によって伯耆国(鳥取県)倉吉に移されるまで、170年近くにわたって安房地方の歴史をつくりました。

里見氏はもともと安房の武士ではなく、上野国の出身です。今の群馬県高崎市(旧榛名町)に里見という土地があります。鎌倉時代のはじめ、ここを所領にした新田氏の一族の一人が、里見という苗字を名乗ったのです。そのなかから、戦国時代の初めに安房国に現れたのが房総里見氏の祖となる里見義実(さとみよしざね)です。義実は白浜城を取り立て、義通(よしみち)は安房国主になりました。義通から家督を継いだ里見義豊(よしとよ)は天文2年(1533)7月、突然、叔父里見実堯(さとみさねたか)と、里見家を腹心として支えていた正木通綱(まさきみちつな)を稲村城内で殺害しました。この骨肉の争いをきっかけに、「お家騒動」や北条氏との戦いなど、まさに戦乱の世を繰り広げたのが里見氏の歴史ともいえます。

実堯の子・義義(よししたか)による「犬掛の合戦」や国府台合戦などを経て、義頼が安房・上総を一気に自分の勢力が及ぶ領土として、里見領国の支配を確立しました。

豊臣秀吉の時代に、岡本城から館山城へ拠点を移すなど、栄華を誇った里見氏でしたが、江戸時代になり、外様大名を取りつづす政策にのまれ、慶長19年(1614)9月、忠義は安房国の領地を没収され、鹿島三万石の替え地として伯耆国倉吉(鳥取県倉吉)へ移されてしまいました。事実上の里見家の崩壊となったのです。

※詳しい歴史の流れは、本書「房総里見氏略年表」をごらんください。



# 里見氏と南総里見八犬伝

## 南房総里見浪漫の旅へ



南房総市

発行/南房総市内道の駅連絡会 問い合わせ先/南房総市富浦町青木28 商工観光部観光プロモーション課 ☎0470-33-1091

# 南房総と『南総里見八犬伝』

『南総里見八犬伝』は、江戸時代の文豪曲亭馬琴が28年もの年月をかけて著した長編小説です。戦国時代に安房の地を活躍の拠点にした房総里見氏の歴史を題材にしていますが、けっして歴史事実にはこだわらず、そのすべてが新たに創作されたものです。1814年(文化11年)に最初の5冊を出版してから、全106冊を出し終えたのは1842年(天保13年)のことでした。

この物語の主題は、「勧善懲悪(かんぜんちやうあく)・因果応報(いんがおうほう)」にあります。悲劇の最期を遂げた里見氏をはじめ安房地方の善良なる人々などをとりあげて、馬琴の意のままに大活躍させる爽快な小説になっています。

時は今から500年以上前の室町時代の中頃、関東管領・足利持氏が反乱を起こして京都の將軍家に滅ぼされます。その遭いを引き取った結城氏朝も京都に叛いて籠城するも、援軍無く落城。父と共に結城方に味方した里見義実は父に「落延びて里見家を再興せよ」と言われ辛くも戦場を離脱し、安房の国に渡りました。安房国の北半分は、滝田城主の神余光弘が治めていました。光弘は、玉梓(たまざし)という美女にうつつを抜かし、政治を忘れ酒色の日々を重ねており、領内の支配は、玉梓に取り入っての上上がった重臣の山下定包に任せていました。定包は、悪政を行うとともに玉梓と密通を重ね、ついに光弘から国を奪い取ります。丁度その頃、安房に上陸した義実は、光弘の重臣・金碗八郎と出会い、共に定包を討ちます。玉梓の裁判の時、義実は「女だから許しても…」と口にはしますが八郎の反対にあい処刑を決めます。「一度は許すと言いつつ、里見を末代まで呪ってやる」と玉梓は恨みを残し死んでいきます。

その後、結婚した義実には、義成と伏姫が生まれます。伏姫は、三歳までもの言わない子でした。心配した母は、伏姫と役行者の岩窟へと参拝に行きます。その帰りに老人から数珠をもらおうと、それ以降の伏姫は、口が利けるようになり美しく健やかに成長します。その頃、近村の百姓の子犬が狸に育てられているという噂があり、その犬を義実は連れてこさせ八房と名付けました。

ある年、安房国南半分の領地(館山城主・安西景連)が不作となり、義実はそれを見かねて米を送りまし



曲亭馬琴肖像 (戯作六家撰 所収) 館山市立博物館所蔵

た。翌年、逆に里見領が不作となってしまいました。義実は、金碗八郎の子・金碗大輔を使者として安西に米を乞いましたが、安西は米を送るどころか滝田城へ攻め込んで来ました。滝田の城では、食料が尽き飢えて戦う気力もなくなりついに最期という夜に義実は八房に「敵將安西の首をとってきたら伏姫を嫁にやろう」と戯言を言います。ところが八房は、本当に安西の首をとって来ます。義実は、八房への褒美に美食を与えますが、八房は伏姫を求めます。怒った義実が八房を殺そうとしますが、伏姫は「君主たる者は、約束を守らなければなりません。私は八房の嫁になります」と言い、八房の背中に乗り空を飛ぶように富山(とみさん)物語では「とやま」と呼ぶ)に向かい、山の奥深い洞窟で暮らすこととなります。

洞窟で八房と共に暮らす伏姫は、読経の毎日を送っていました。やがて八房も読経に耳を傾けるようになります。ある日、仙童が現れ伏姫に「玉梓の怨念で犬の気により八つ子が生まれる」と懐胎を告げますが、身に覚えがないのに犬の子をなしたことを恥じて伏姫は自害を決意します。その時、伏姫を救い出そうと富山に入っていた大輔は、鉄砲で八房を撃ち命中させます。しかし、その弾が伏姫にも当たり命を落としてしまいます。別に伏姫を探しに来ていた義実が、伏姫の首に数珠を掛けると娘は蘇生しますが、あらためて剣で自害をしてしまいます。すると傷口から白気が立ちのぼり「仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌」の文字の入った八つの玉が空の彼方に飛散します。伏姫は大輔に「数珠の玉を持つ者が里見家を守り立ててくれる」と言い残します。この霊玉を持つ者が八犬士です。大輔は、その場で剃髪し、犬という文字を二つに割って、犬(ちゆだい)と名乗って八犬士を探す旅に出ます。

# 八犬士と八玉の説明

〈豊原国周画〉



**仁**  
大江親兵衛仁  
(いぬえしんべえ まさし)  
制作年 慶應2(1866)年  
儒教の根本理念で自他のへだてをおかず、一切のものに親しみなげ深くあること。愛情を他におよぼすこと。いつくしみ。おもいやり。



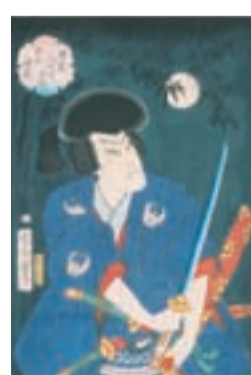
**義**  
犬川莊助義任  
(いぬかわそうすけ よしとう)  
制作年 慶應2(1866)年  
道理。人間として行うべきすじみち。利害をすて、条理にしたがって人のためにつくすこと。



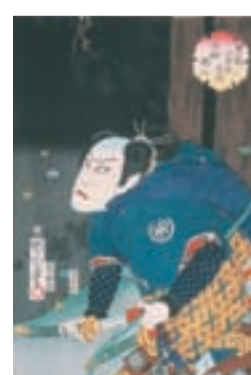
**礼**  
犬村大角礼儀  
(いぬむらだいかく まさのり)  
制作年 慶應2(1866)年  
人の行うべき道。社会の秩序を保つための生活上の定まった形式。敬意をもって、きまりにしたがうこと。うやまつおしぎをするこ。



**智**  
犬坂毛野嵐智  
(いぬさかひの たねとも)  
制作年 慶應1(1865)年  
物事をよく理解しわきまえていること。かしこいこと。是非を判断する心の作用。ちえ。



**忠**  
犬山道節忠与  
(いぬやまどうせつ ただとも)  
制作年 慶應1(1865)年  
真心をつくして忠実なこと。まめやが。主君に対して、臣下としての真心をつくすこと。



**信**  
犬飼現八信道  
(いぬかいはちの のぶみち)  
制作年 慶應2(1866)年  
欺かないこと。言をたがえぬこと。思い込んでうたがわれないこと。信用すること。彌依すること。



**孝**  
犬塚信乃成孝  
(いぬづかし のりたか)  
制作年 慶應1(1865)年  
父母によく仕えること。父母を大切にすること。



**悌**  
犬田小文吾悌順  
(いぬたこぶんご やすより)  
制作年 慶應2(1866)年  
よく兄または長者(年長者など)につかえて柔順なこと。弟または長幼間の情誼の厚いこと。

# 八犬伝と里見氏にかかわるスポット

## ◆里見浪漫を巡る

南総里見八犬伝の物語の舞台となった南房総。物語の中心となった「富山」をはじめ江戸時代の作品そのままに、静寂とその痕跡の残る山々などを巡ることができます。同時に、中世の安房を治めていた史実としての「戦国大名・里見氏」のその歴戦の跡も色濃く残るこの地では、物語と歴史が織りなす不思議な空間を演出しているとも言える地なのです。そこが「里見浪漫」の香りがする所以でもあります。歩いて、車で、物語を、史実を、ゆったりとめぐってください。

- …「南総里見八犬伝」の物語にまつわるスポット
- …中世・里見氏にまつわるスポット

### ●富山周辺図



●伏姫龍穴  
八犬伝で伏姫が八房と暮らしたとされる洞窟。命を絶った伏姫がここに眠ると言われます。

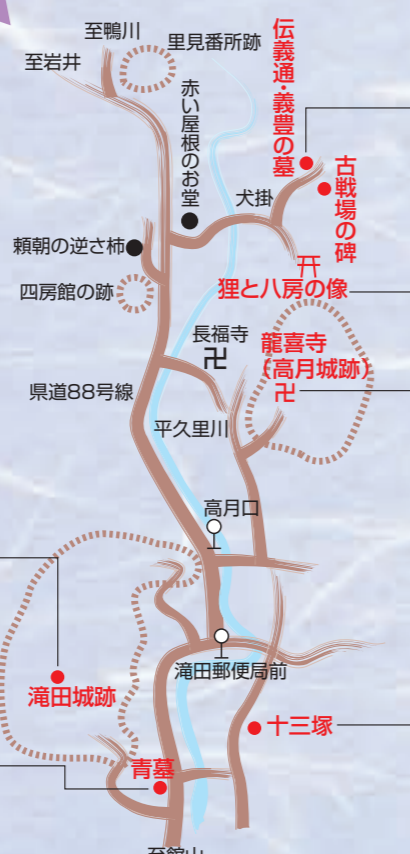
●伏姫の龍穴・犬塚・山門  
●不寝見川番所跡

●伏姫と八房の像  
八犬伝ロマンの里のお出迎えは岩井駅の目の前の伏姫公園の伏姫と八房。

●山門  
富山の玄関口・山門。物語で八房が伏姫を背負って歩いた階段が目前に。

●犬塚  
物語の中で、八房が葬られたとされる場所を「犬塚」といつか呼ぶようになりました。

### ●滝田城址周辺図



●里見氏の墓  
父子である義通、義豊が眠る墓です。

●犬掛の里・八房と狸の像  
八房が誕生したとされる場所。八房を育てたとされる狸の像と「八房出生地」の標柱が。

●龍喜寺  
滝田城のすぐ東側の高月集落にある曹洞宗の寺。義通の開基とされています。

●十三塚  
犬掛の合戦で討死にした義豊方の武将十三人を供養したという伝承があります。

●滝田城址(櫓風展望台)  
八犬伝では里見義実の本城。玉梓の怨念が里見家に祟ることとなった物語の序章の舞台。

●滝田の青墓  
滝田城のふもとに、里見氏の家臣の岡本四郎兵衛重重の墓があります。



■青岳尼供養塔(興禅寺)  
岡本城の東にある臨濟宗の寺。里見義弘の夫人になった人で、義頼の母とも考えられている「青岳尼」が開き、その供養塔があります。

●興禅寺  
●岡本城跡  
●光厳寺  
●道の駅おつの里花俱樂部

●里見義頼の墓(光厳寺)  
岡本城の東にある曹洞宗の寺。義頼の菩提寺。宝篋印塔形式の義頼の墓があります。

●延命寺  
●稲村城跡  
●源慶院  
●福生寺

●館山城跡  
●白浜城跡  
●杖珠院

●石堂寺  
16世紀前半に建築された天台宗の寺。多宝塔は1545年に義豊が滅ぼした義頼らの供養のために建立したといわれています。

●延命寺  
関宿・東昌寺末の曹洞宗の寺。実豊以後の後期里見氏歴代の菩提寺になっています。

●稲村城跡(館山市)  
里見氏が安房平定をした頃の城。ここで義豊は1533年に叔父実豊を誅殺するものの、その子義隆に城を追われました。土塁・堀切が残っています。

●館山城跡(館山市)  
天正18(1590)年に里見義康が本城にして、忠義が慶長19(1614)年に滅亡するまでの城。現在、博物館として復元されています。

●杖珠院  
白浜城の東にある曹洞宗の寺。義実・成義・義通・義豊など、里見氏嫡流の菩提寺で、江戸時代に建てた初代義実の供養塔や義実以下4代の本尊があります。

●白浜城跡  
里見氏が安房で最初に城にした場所といわれ、山には段々に造られた平坦面がたくさんあります。

- 歩いて・車で
- JR岩井駅から富山・山門……徒歩30分 車で5分
  - 平群天神社から富山山頂まで…徒歩90分 車で20分
  - 滝田城址から龍喜寺……徒歩12分 車で5分
  - 古戦場跡から滝田城址……徒歩40分 車で12分
  - JR富浦駅から岡本城址……徒歩10分 車で3分

\*参考資料…川名登編「すべてがわかる戦国大名里見氏の歴史」

## 房総里見氏略年表

西暦	年号	事項
1439	永享11	2月、上杉憲実のために足利持氏自害。里見刑部少輔家基も自害する。(永享の乱)
1441	嘉吉1	4月、結城城落城。里見修理亮討死し、首が上洛する。(結城合戦)
1447	文安4	8月、足利成氏、鎌倉公方となり鎌倉へ帰る。里見義実、安房から出仕する。
1454	享徳3	12月、足利成氏、里見義実・武田信長等を率いて関東管領上杉憲忠を討つ。以後関東大乱となる。翌年、成氏は下総古河へ移る。(享徳の大乱)
1456	康正2	武田信長、上総に討入る。これにあわせて、安房の里見義実も稲村城から上総国境へ軍勢を出す。
1508	永正5	9月、里見義通、鶴谷八幡宮を修造して、古河公方足利氏政の武運長久を祈る。
1512	永正9	8月、里見義豊、高野山辨教院と宿坊契約をする。
1514	永正11	6月、義通、弟実豊を次将にして北部に討入り、妙本寺に陣を構える。
1515	永正12	3月、義通、妙本寺に城を取り立てて、実豊をおく。
1518	永正15	足利義明、下総小弓城に入り、里見氏これに従う。
1520	永正17	義通、下総本佐倉城の千葉氏を攻める。
1526	大永6	5月、義豊、正木通綱に港湾都市武州品川の北条軍を攻撃させる。
1527	大永7	12月、義豊、上総鎭物師の大野大膳亮を房州鎭物大工職とする。
1529	享禄2	6月、義豊、鶴谷八幡宮を修造して、古河公方足利氏晴の武運長久を祈る。
1533	天文2	3月、義豊、北条氏綱から鎌倉鶴岡八幡宮の造営協力を依頼され、断る。7月、義豊、叔父実豊と正木通綱を殺害する。安房国内乱になる。9月、里見義実、北条氏の支援を得て、義豊を安房から追う。4月、義豊、義実と合戦して滅亡する。義実、家督を継ぐ。
1534	天文3	8月、義実、鶴谷八幡宮を修造して、古河公方足利氏晴の武運長久を祈る。
1535	天文4	10月、義実、北条氏の河越攻撃に援軍を送る。
1536	天文5	3月、義実、北条氏綱の鎌倉鶴岡八幡宮の造営に協力して、材木を送る。
1537	天文6	5月、義実、北条氏と手を切り、上総武田氏の内紛に介入する。
1538	天文7	10月、国府台合戦で足利義明討死。義実も逃れて、義明の遺児を安房に引き取る。
1542	天文11	正木時茂・時忠兄弟、夷隅の武田氏を攻撃し、勝浦城を攻略。十三年頃には小田喜城も奪う。
1545	天文14	8月、義実、鶴谷八幡宮を修造して、古河公方足利氏晴の武運長久を祈る。11月、義実、石堂寺の多宝塔を建立して、天文の内乱で死んだ人々の供養をする。北条氏康、北部の正木兵部大輔・西上総の峯上衆を手引きして、安房・上総に逆乱をおこす。安房へも北条氏が攻め入る。
1556	弘治2	義実、三浦半島に北条氏を攻めるといふ。
1558	永禄1	11月、義弘、鶴谷八幡宮を修造して、古河公方足利氏晴の武運長久を祈る。
1560	永禄3	9月、義実、久留里城を北条氏康に囲まれ、正木時茂から上杉謙信に支援を要請する。正木時忠、下総小見川に城を構える。
1561	永禄4	4月、上杉謙信、小田原城を囲み、里見義弘もこれに参加。鎌倉で対面する。
1562	永禄5	足利義隆、古河城を追われて義実をたよる。
1563	永禄6	2月、義実、下総市川へ出陣。謙信も武蔵岩付へ着陣する。閏12月、謙信、上野国で武田・北条軍と対陣し、義実を援軍を依頼する。1月、義実、義弘、国府台で北条氏康と合戦し大敗する。この年、勝浦の正木時忠、里見を離反して氏康につく。氏康に上総の諸城を落とされる。
1566	永禄9	3月、謙信、下総臼井城を攻め、里見軍もこれに参加する。
1567	永禄10	8月、義弘、上総三輪山で北条軍を破り、上総を回復する。
1569	永禄12	2月、義弘、下総市川へ出陣する。閏5月、氏康、謙信と同盟し、里見氏にも和睦を望む。義弘これを断り、武田信玄と結ぶ。
1571	元龜2	10月、氏康没し、北条氏政、謙信と手切れする。
1572	元龜3	2月、信玄、里見氏と北条氏の和睦を望む。12月、義弘、鶴谷八幡宮を修造し、足利義隆の武運長久を祈る。
1574	天正2	6月、義実没する。
1575	天正3	10月、義弘、上総横田郷・下郡などの奉公中に負債の免除をする。12月、里見義継(義頼)、武蔵金沢の商人山口氏に海上の安全を保障する。
1577	天正5	北条氏、上総へ侵攻して数ヶ城を落とす。義弘、北条氏政と和睦する。
1578	天正6	5月、義弘没し、梅丸家督を相続する。義頼、安房を支配する。
1579	天正7	5月、正木憲時、武蔵金沢の山口氏に商売を許可する。6月、上杉景勝、義頼との入魂を伝える。9月、梅丸丸、武蔵金沢の山口氏に分国での商売を保障する。11月、常陸の梶原政景、義頼を味方に勧誘する。
1580	天正8	4月、義頼、西上総の梅丸勢力を制圧する。7月、小田喜の正木憲時、義頼に反乱する。
1581	天正9	9月、義頼、憲時を滅ぼす。
1582	天正10	8月、義頼、甲斐国で徳川家康と対陣する北条氏直に援軍を送る。
1584	天正12	4月、義頼、商人岩崎与次右衛門に高之島渡がある沼之郷で屋敷を与える。
1585	天正13	義頼、豊臣秀吉に進物をする。
1587	天正15	10月、義頼没して、里見義康家督を継ぐ。
1588	天正16	11月、義康、秀吉に使いを送る。秀吉によって上総の領土の境目が確定される。
1590	天正18	4月、義康、小田原合戦に参加。惣無事令違反によって上総を没収される。9月、義康、上洛する。
1591	天正19	3月、従四位下侍になる。7月、義康、家臣・寺社の知行替えを実施する。岡本城から館山城へ移る。義康、家康に従って九州名護屋へ出陣する。
1592	文禄1	9月、安房国で太閤検地を実施。義康、家臣・寺社の大規模な知行割りを実施。
1597	慶長2	9月、関が原合戦で、結城秀康に従い宇都宮へ出陣。恩賞として三万石を加増される。
1600	慶長5	4月、義康、館山城下に市を立て、国中の商人に法度をだす。
1601	慶長6	11月、義康没して、梅鶴丸(忠義)家督を継ぐ。
1603	慶長8	7月、梅鶴丸、家臣・寺社への所領安堵を行い、城下商人を保護する法度をだす。
1606	慶長11	11月、梅鶴丸、將軍秀忠の御前で元服して、忠義と名乗る。
1611	慶長16	忠義、大久保忠隣の子孫を室に迎える。
1613	慶長18	10月、忠義の叔父里見忠重、上野国板鼻一万石を改易になる。
1614	慶長19	9月、忠義、大久保忠隣に罪に連座して、安房国を没収され、鹿島三万石の替地として倉吉を与えられる。館山城破却される。
1616	元和2	忠義、倉吉近郊の北条郷八幡宮を修造する。
1622	元和8	6月、忠義没して、里見家断絶する。9月、家臣数名が殉死する。